

京都新聞 2011/8/9

取得企業

地元で出前教室

広がり 中小企業ならでは

KESの取得企業が中心になって、地域の学校や住民とともに環境問題を取り組む「京都環境ミニユーティ活動（KES）」が京都市で広がっている。KESは「京のアジエンダ21フォーラム」がない明徳小（左京区）の一校別にチームをつくり、地元の小学校や保育所で環境の大切さを教え、出前授業をしたり、太陽光発電を解説する紙芝居を上演している。4月には、人の手が入ってい

「KES」が地域貢献を重視している点に加え、市立の全小中学校が学校版のKESを取得していることから、地域一体で生態系保全や地球温暖化防止活動に取り組もうとする試みだ。

複数の企業が協力しあつて、「自然エネルギー」

A bar chart titled "KES取得件数" (Number of KES acquisitions) on the y-axis and years on the x-axis. The y-axis ranges from 0 to 4000 in increments of 1000. The x-axis shows the years 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2009, and 2010. The bars represent the following values: 2004 (104), 2005 (104), 2006 (104), 2007 (104), 2008 (104), 2009 (104), and 2010 (104).

年	KES取得件数
2004	104
2005	104
2006	104
2007	104
2008	104
2009	104
2010	104

A bar chart titled '年次' (Yearly) showing the number of participants in the 'Positive' category. The y-axis is labeled '数の推移' (Number of Participants) and ranges from 0 to 3640. The x-axis shows years from 2012 to 2013. The bars show a steady increase from approximately 1200 in 2012 to over 3600 in 2013.

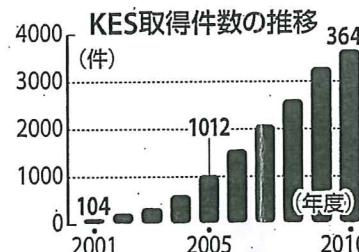
年次	数
2012	12
2013	3640

食料加工機械を製造する「宝田工業」(京都市右京区)の工場は、天井の蛍光灯に紫色や青色の紙が何枚もぶら下がっている。スイッチの横にも色紙。天野正明社長(62)は「どの蛍光灯がどのスイッチに当たるか、社員の記憶に定着する。無理もない」と笑う。電気料金を2%減らした。

A black and white photograph showing a cluttered basement or storage area. The floor is covered with various items, including boxes and what looks like a washing machine. In the background, there are shelves and more boxes stacked high. The ceiling is visible with exposed pipes and beams.

A grainy, black and white photograph capturing a dark, cluttered interior scene. In the upper left, a prominent red rectangular shape, possibly a piece of equipment or a sign, stands out against the dark background. The floor is covered with various items, including what look like cardboard boxes and debris. The ceiling above is dark and appears to have some pipes or structural elements. The overall atmosphere is one of disarray and neglect.

積極的な地域貢献「評価へ



宝田工業ではKES取得後、
使用済みコピー用紙を裁断し
て商品の包装に使い始めた

や環境負荷を減らす方
けでなく、積極的に社
会に働きかける中小企
業を増やしていく考え方

津村昭太専務理事は「紙、ごみ、電気を減らすだけの環境活動では、行き詰まってしまう面がある」と課題を指摘する。

東日本大震災を受けて、大量消費を前提にする生産や生活からの脱却を目指す動きが強まっていく。同機構はこの動きをとらえ、自社の中で資源の消費

て審査を受ける。国際規格のIS014000-1に比べて費用が安く手続きも簡素で済む上、取得後も審査員から継続してアドバイスを受けられる。

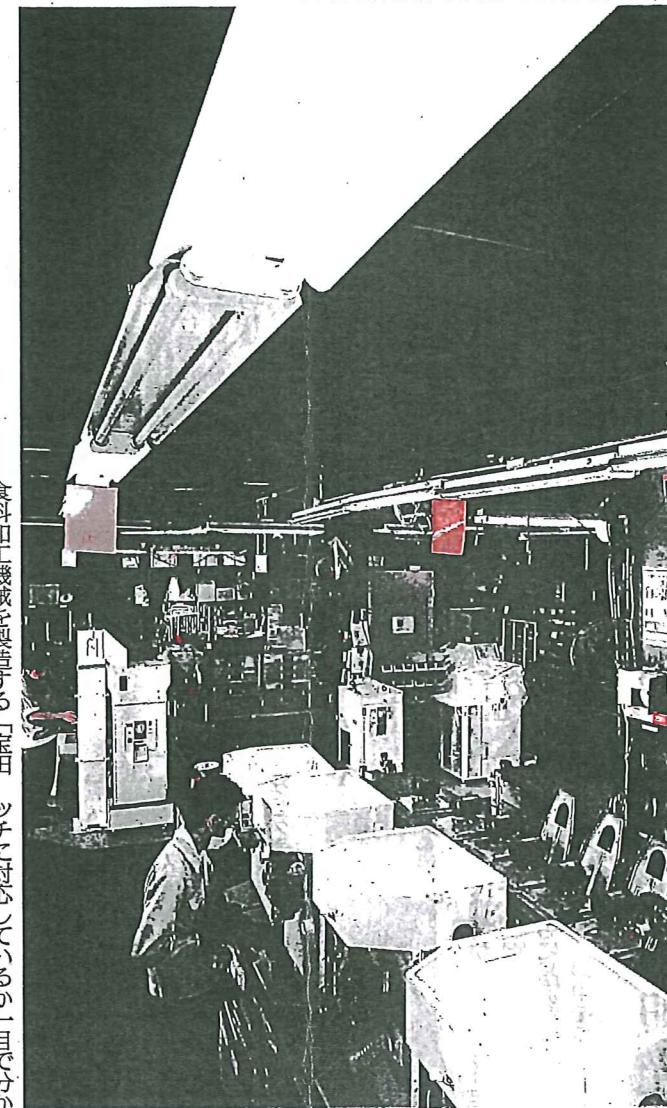
一方でKES取得件数の伸びは最近、鈍化する傾向にある。KE-Sの審査と登録を行うNPO法人「KES環境機構」(石原区)の

京生まれの環境規格 KES認証 10年で3640件

2011年5月10日朝刊 地元経済面掲載

環境

色紙で蛍光灯とスイッチの対応を分かりやすく示し、照明を減らした宝田工業の節電対策(京都市右京区西京極南庄境町)



■震災、原発事故受け新たな動き

も発足した
7月下旬、交通環境
ームに参加する自動車業者
売会社やタクシー会社
社員ら10人が集まつて

が生まれ、企業、学校
住民の間で顔の見える
係を築くのが理想だ」
話す。

「大したことはしていないんですけど」。KESを取得したある工場の経営者はそう前置きしつつ、「電気を使う量がどんどん減っていくのがうれしかった。ささやかだが、小さな工場が環境問題に取り組んだことで、社員が誇りを持てた」と語った。

地球規模の環境変化は生活

エコな車の使い方をテーマに出前授業の練習をする
KEGOGO参加企業の社員(中京区亮金通二条上り)

朱小で出前授業を開くため準備を進めた。環境に優しい運転方法やハイブリッド車について、スピードやクイズ形式で分かれやすく伝える工夫を心に話し合った。

KESC発足時から参加している中京区の学生服販売会社「村田堂」の長屋博久取締役（41）は、「地元に根づいた中小企業だからこそ地道で継続的な活動ができるし、学校周辺の緑化や緑のカーテン設置などさまざまな事業も可能だ。小学校単位できめ細かくチラシが生まれ、企業、学校住民の間で顔の見える係を築くのが理想だ」と話す。

「大したことはしていないんですけど」。KESを取得したある工場の経営者はそう前置きしつつ、「電気を使う量がどんどん減っていくのがうれしかった。さやかだが、小さな工場が環境問題に取り組んだことで、社員が誇りを持てた」と語った。

● 記者ひと言

地中規模の環境変化は生活の中でも実感しにくい。環境規格も、ややもすれば、規格という金看板を得ること自体を目的にする、本末転倒に陥る恐れがある。環境への配慮が広く根づくには、この経営者が語ったような達成感を持ち続けられる仕掛けをつくることが大事だと思う。

(吉永周平)